

平成 30(2018)年度 自主講座一覽

NO.	講座・講師名	講座目的	講座内容	講座日程等
1	<p>絵画資料からみる近世社会 - 「延岡城下図屏風」を読む -</p> <p>大賀 郁夫 教授</p>	<p>宮崎群関係の近世史料を解説し、江戸時代の宮崎を理解する。</p>	<p>絵画資料からみる近世社会 - 「延岡城下図屏風」を読む-</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月23日(土)</li> <li>・ 10:00~12:00</li> <li>・ 全1回</li> <li>・ 20人募集</li> <li>・ 歴史に興味のある方</li> </ul>
2	<p>日中平和友好条約締結40周年記念：ファミリーヒストリーに見る日中関係史</p> <p>田宮 昌子 教授</p>	<p>日中平和友好条約締結40周年を記念して、日中関係の来し方行く末を考える。</p>	<p>田宮：司会進行、まとめ「個人と家族史の視点から日中関係を見ることの意味」 津村重光氏：講演「ファミリーヒストリーに見る日中関係史」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月30日(土)</li> <li>・ 13:00~15:30</li> <li>・ 全1回</li> <li>・ 100人募集</li> <li>・ 宮崎市民(本学学生を含む)</li> </ul>
3	<p>‘シェアする’人事部が地方企業を変える</p> <p>市村 陽亮 助教</p>	<p>人事部を「シェアする」という新たな考えが地方企業にもたらす可能性を、事例を交えて紹介し、宮崎における活用を論じます。</p>	<p>日本人材機構を中心として、複数の企業や行政で人事部を「シェアする」という新しい仕組みが動き出そうとしています。この新たな取り組み「地域の人事部」について、その取り組みが地方にもたらす可能性について、日本人材機構の方をお招きして論じます。一方的な講義だけでなく、参加者との活発なインタラクションを促します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月29日(金)</li> <li>7月13日(金)</li> <li>・ 18:00~19:30</li> <li>・ 全2回</li> <li>・ 30人募集 (1回あたり)</li> <li>・ 企業関係者及び行政関係者</li> </ul>

4	<p>ストレスと上手につきあう心理学</p> <p>川瀬 隆千 教授</p>	<p>「ストレス」とは何でしょうか。よく使う言葉ですが、実はよくわかりません。私たちの身の回りのストレスについて心理学の観点から解説し、ストレスにうまく対処する方法を考えます。</p>	<p>ストレスに関する心理学的な理論や考え方を紹介した上で、個人によるストレスへの対処、困難な状態にある人たちへの周りの人たちからの支援、上手に助けを求める方法などのストレス対処方法とメンタルヘルスとの関係について実践的に考えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月 21 日(土)</li> <li>・ 13:30～15:30</li> <li>・ 全 1 回</li> <li>・ 100 人募集</li> <li>・ 一般市民</li> </ul>
5	<p>「徳」の倫理学と現代の諸問題</p> <p>川瀬 和也 助教</p>	<p>古代ギリシャ哲学由来の「徳」の倫理学について紹介し、倫理的諸問題を考察する際の方法論について触れる機会を提供する。</p>	<p>「徳」の概念の古代から近代までの受容の歴史をたどった後、現代の医療や環境、ビジネス等の領域における最新の倫理的諸問題に、「徳」の倫理学がどのような知見を提供しているかを紹介する。外部講師(九州大学助教・酒井健太郎氏)の講義の形で実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月 8 日(土)</li> <li>・ 15:00～17:00</li> <li>・ 全 1 回</li> <li>・ 50 人募集</li> <li>・ 地域住民・本学学生等</li> </ul>
6	<p>インドネシアと日本の事例から英語教育について考える</p> <p>李 善愛 教授</p>	<p>日本やアジアではグローバル人材育成のため国際語となる英語教育に力を入れているが、それぞれ課題も多い。そこで多民族・多言語国家のインドネシアの大学との英語教育法や課題について意見交換を行うことで相互により良い英語教育のための課題解決や展望に向けてヒントを得ることを本シンポジウム開催の目的とする。</p>	<p>シンポジウムは宮崎公立大学と北スマトライスラム大学の英語教員 2 人ずつ 4 人がそれぞれの大学における英語教育の現状と課題について 1 人当たり 30 分間発表し、宮崎市教育情報研修センター指導主事の片山氏のコメントの後、総合討論を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10月 7 日(日)</li> <li>・ 14:00～17:00</li> <li>・ 全 1 回</li> <li>・ 50 人募集</li> <li>・ 一般市民、学生</li> </ul>

7	<p>学校の「ともだち」の社会学</p> <p>寺町 晋哉 助教</p>	<p>学校の児童生徒間の関係性を社会的に考察することを通じて、学校で形成される人間関係についての理解を深める。</p>	<p>学校で形成される人間関係について、スクールカーストの観点および「やんちゃな子ら」と階層の観点から話題提供をしてもらい、フロアを含めたディスカッションを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10月13日(土)</li> <li>・ 14:00～17:00</li> <li>・ 全1回</li> <li>・ 100人募集</li> <li>・ 高校生以上</li> </ul>
8	<p>教育機関・地域と連携した防災教育 (ストリートウォッチング)</p> <p>辻 利則 教授</p>	<p>将来を担う子供たちへの防災教育として、平時から災害に備えた取り組みについて、高齢者、障がい者など含めて実践活動を行い、地域の役割、自分にもできることを理解してもらい、さらに子供たちを通して若い世代の地域参加を促すことを目的とする。</p>	<p>小学生を対象に、教育機関と連携し、地震や津波、洪水など災害時に必要な心構え、特に普段から考えておくべきことについて講座(35人程度のクラスで4回程度)行う。また、実際に地域の危険箇所や災害時に重要となる避難場所などを知るために調査(全体1回)を行う。調査は、地域住民、障がい者団体、そして本学の大学生を募り、最後に危険箇所、避難場所等を地図上に記入してまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11月6日(火)</li> <li>・ 11月13日(火)</li> <li>・ 8:00～13:00</li> <li>・ 授業4回</li> <li>・ 調査1回</li> <li>・ 180人募集</li> <li>・ 小学生、地域住民(障がい者)、大学生</li> </ul>
9	<p>中原中 と高森文夫</p> <p>楠田 剛士 准教授</p>	<p>近代詩人の中原中と、宮崎出身の詩人である高森文夫との関りについて学びます。</p>	<p>中原中也記念館館長の中原豊氏を招き、参加者との意見交換も交えながら、近代詩人の中原中と、宮崎出身の詩人である高森文夫との関りについて学びます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 12月15日(土)</li> <li>・ 14:00～16:00</li> <li>・ 全1回</li> <li>・ 100人募集</li> <li>・ 一般市民を対象</li> </ul>

10	<p>第2回 地域のお宝発掘・発展・発信事業を考える</p> <p>永松 敦 教授</p>	<p>現在、宮崎市が22の地域で進めている市民主導型の本事業が地域創生に果たす役割について検証する。</p>	<p>1. 下北方町 フットパス 平和の塔、前回の東京オリンピックの聖火台 ホタルの川、景清廟、帝釈寺、日本遺産の出土遺物の見学</p> <p>2. 在来再来弁当「景清」試食会</p> <p>3. 講演会「地域創生とフットパス」 講師に北九州市立大学地域創生学群准教授の廣川祐司氏を迎え、フットパスの経済効果、交流人口の増加等の講演</p> <p>4. シンポジウム「地域創生に何が必要か？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フットパスについて</li> <li>・コミュニティバスについて</li> <li>・持続性、経済性について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月23日(日)</li> <li>・9:00~16:30</li> <li>・全1回</li> <li>・200人募集</li> <li>・一般市民</li> </ul>
----	---	--	--	---